

3 家族がつくった「認知症」早期発見のめやす

日常の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を、「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。いくつか思いあたることがあれば、かかりつけ医などに相談してみることがよいでしょう。

- 1. 今切ったばかりなのに電話の相手の名前を忘れる
- 2. 同じことを何度も言う・問う・する
- 3. しまい忘れ置忘れが増えいつも探し物をしている
- 4. 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う
- 5. 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 6. 新しいことが覚えられない
- 7. 話のつじつまが合わない
- 8. テレビ番組の内容が理解できなくなった
- 9. 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 10. 慣れた道でも迷うことがある
- 11. 些細なことで怒りっぽくなった
- 12. 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 13. 自分の失敗を人のせいにする
- 14. 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた
- 15. ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 16. 外出時持ち物を何度も確かめる
- 17. 「頭が変になった」と本人が訴える
- 18. 下着を替えず身だしなみを構わなくなった
- 19. 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- 20. ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる

もの忘れ
がひどい

判断・理解
力が衰える

時間・場所が
わからない

人柄が変
わる

不安感が
強い

意欲がな
くなる



「公益社団法人 認知症の人と家族の会より」

2 認知症は早期発見、早期治療が大切です

医療の専門は精神科、神経内科などです。県内でも専門医療機関は少ないので、かかりつけ医と専門医療機関を上手く活用しましょう。

(例) 薬や日常の診療はかかりつけ医、脳の検査などは専門の医療機関

<検査>

- ① 問診 …… 現病歴、既往歴、生活歴、症状等
- ② 認知機能検査 …… 認知力や記憶力等の検査
- ③ CT検査やMRI検査 …… 脳の写真での萎縮や血管の状態を診断
- ④ その他：認知症のような症状を引き起こす身体の病気がないことを確定する検査

